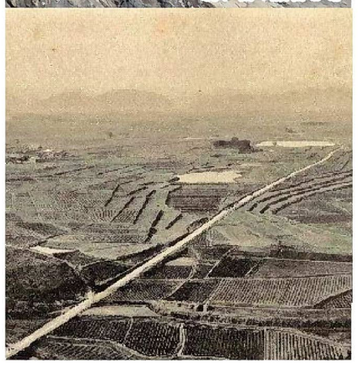
北条街道

田口路傍 道標（西国三十三所巡礼道）

駒ヶ岩の船着き場



人・物・情報の十字路

福崎町は、南流する市川が拓く谷筋や低地と東西の山崎断層帯がつくる谷筋が交わる場所に位置し、谷筋や低地には多くの道が通されました。主な道には、古墳時代の石棺材を運んだとされる石の道、中世以降の西国三十三所巡礼道などの信仰の道、近世の生野街道や北条街道、市川の舟運や渡し、近代の生野鉱山寮馬車道があります。

これらの道は、人や物、情報が行き交い、村と村、人と人をつなぎ、沿道の暮らしや文化に大きな影響を与えてきました。また、それらが交わる場所には町場が発達して、交通の要衝として賑わいました。

交通手段の変化などに伴い、付け替え、失われたり、広域をむすぶ道としての役割を終えたものも多いですが、町内各所に残る石棺や路傍の道標、地蔵などは、かつての道が育んだ歴史文化を今に伝えています。

■石の道

町内の遺跡で発見された旧石器～弥生時代のサヌカイト（讃岐石）製の石器や、和歌山方面からの石材と考えられる絹雲母片岩による縄文時代の石棒（大門岡ノ下遺跡出土）は、古くから他地域とつながっていたことを示しています。

古墳時代には、石棺をつくるために加西市高室から石が切り出され、山崎断層帯などがつくる谷筋（大貫ルートと八千種ルート）を通って運び込まれたと考えられています。町内には 21 点の石棺材（高室石製）が確認されています。

石棺蓋石（宝性院）

高室石は、近世・近現代にも、墓石や神社の鳥居、玉垣などに利用されてきました。

■信仰の道

三十三観世音菩薩の化身数にちなんで、西国の三十三か所の聖地が札所に定められています。27 番札所が書写山圓教寺（姫路市）、28 番札所が世野山（現成相山）成相寺（京都府宮津市）で、この区間の巡礼道が板坂区から田口区を横断しており、「じゅんれいみち」と刻まれた道端の道標などから、当時の道筋をたどることができます。板坂区では、共同墓地前辺りに茶屋が置かれ、地蔵堂はかつて巡礼道沿いに位置して巡礼者の宿にもなったこと、大正時代初期頃までは巡礼者を宿泊させる家が 8 戸あったことなどが伝わります。また、應聖寺に残る赤穂浪士討ち入り事件に関する手紙（豊岡の実家にいた大石内蔵介の妻・りく宛とも考えられる書状）は、播磨・但馬を結ぶ巡礼道ならではの歴史を物語っています。また、第 26 番札所の法華山一乗寺（加西市）への法華道も古くから栄え、八千種地区には法華道に関する道標も残っています。

このほか、山崎の千束などの地名伝承や西光寺野のキツネなどの民間伝承が残る道も、人々の信仰を伝えています。

法華道の道標（小倉区）

■街道と町場の発達

町内には、南北に姫路から生野へと通じる生野街道（但馬道）、東西に北条から夢前へと通じる北条街道が通っています。これらの道筋は、古くから人々の交流や交易を支え、浄舞や獅子舞などの民俗芸能、おかげ踊りなどの文化・流行を伝えてきました。

これらの道の交差地点にあたる辻川には町場が形成されてにぎわいました。この辻川界隈は、江戸時代には大庄屋を務めた三木家の屋敷（三木家住宅）があり、明治時代には旧神崎郡役所などが置かれて、地域の政治・文化の中心地でもありました。その中心性と他地域との交流は、柳田國男をはじめとした多くの文化人を輩出する礎となりました。

> 辻川というような非常に旧い道路の十文字になった所に育ったことが、幼い私に色々の知識を与えてくれたように思う。その道路の上を通った者のことが記憶に残っていたり、自分でも様々の見聞をしたりしたので、外部のものの一つ一つに対してこんなに関心を寄せながら成長するようになったのであろう。
> （柳田國男『故郷七十年』有志家というもの、『柳田國男全集』第 21 巻（1997.11，筑摩書房））

■舟運と渡し

【舟運】

江戸時代、大量の物資を輸送する手段として高瀬舟が大きな役割を果たし、市川にも、寛永 3 年（1626）から明治時代初期まで舟運がありました。宝暦 5 年（1755）以降、福崎新村や辻川村に高瀬舟持ちが現れ、生野街道と市川が交わる井ノ口村には問屋があり、物資輸送の中継地点になっていました。市川の川岸から駒ヶ岩にのびた石組みは、船着き場（湛保）で、周辺には積み荷の集積・保管倉庫（浜倉）が建ち、三木家に運び込まれた年貢米は、駒ヶ岩から高瀬舟で飾万津へと下り、大坂に送られました。

【渡し】

市川を横断する渡し舟も運行していました。『市川実測図』（明治中期作製）から、福崎町域には、井ノ口の渡しと福崎新村の渡しの 2 か所があったことが知られています。

井ノ口の渡しは、昭和 22 年（1947）に月見橋（吊り橋）が架橋された後もしばらく航行したとされています。福崎新村の渡しは、大正時代に木橋、昭和 6 年（1931）に鉄橋の神崎橋が架橋されて役目を終えました。

大正時代の井ノ口の渡し

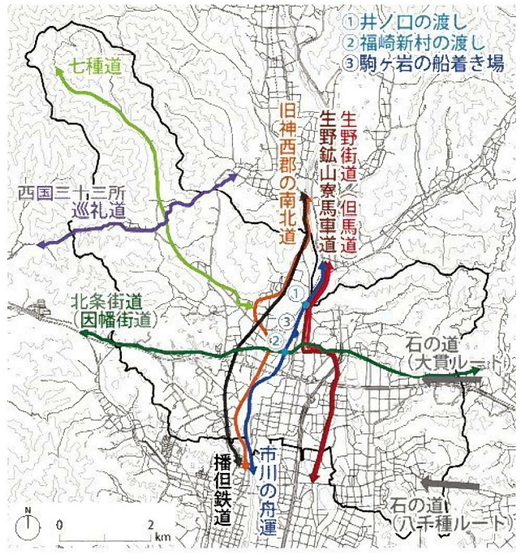
福崎駅凱旋歓迎風景（昭和 8 年）

■生野鉱山寮馬車道～播但鉄道

明治政府による鉱山の近代化が進められるなかで、明治 9 年（1876）、生野・姫路間に日本初の産業専用道路「生野鉱山寮馬車道」がつくられました。

近世からの町場が発展していた辻川は、馬車道の物資輸送の拠点として重要な役割を担いました。馬車道の整備にあたり、三木家は表門と土塀を建て替え、1 間（約 1.8 m）ほど北に移動させて用地を提供しており、現存する表門の部材からは、かつての表門の大きさを知ることができます。

輸送量の増加に伴い、内藤利八らにより播但鉄道敷設の準備が進められ、明治 27 年（1894）に姫路・寺前間、翌 28 年（1895）に寺前・生野間が開通しました。播但鉄道は、乗合馬車や人力車などの駅への交通を発達させ、遠方からの人々や物資の往来を活発にするなど、地域の人々の生活を大きく変えていくものとなりました。



主な道の分布

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
高室石製の石棺・石造物	・伝」崎群集墳出土石棺（歴史民俗資料館） ・宝性院 石棺蓋石 ・薬師寺 石棺底石 ・八反田公民館横 石棺 ・大門公民館横 石棺底石　など	・大善寺裏山 石棺蓋石残欠 ・小倉地蔵庵跡地 石棺棺身 ・西邦寺 石棺蓋石	・山崎立石 石棺蓋石 ・大塚・五反田北畔 石棺底石残欠 ・應聖寺 石棺蓋石 ・東光寺池傍 石棺蓋石（三界万霊塔） ・醫王寺 石棺蓋石　など
街道・古道等	・生野街道（但馬道） ・北条街道（因幡街道） ・生野鉱山寮馬車道	・北条街道（因幡街道） ・法華道 ※ルート不明	・北条街道（因幡街道） ・七種道 ・西国三十三所巡礼道 ・旧神西郡の南北道
路傍の道標・地蔵等	・北野地蔵堂 道標 「右ハひ免し　左ハ北条道」 ・西光寺路傍 道標 「右飾磨 姫路　左 不つけさん □□ 道」 ・田尻地蔵堂 道標 「右もん志ゆ　左たしま」　など	・庄（玉屋）路傍 道標 「左北条　右法花山」 ・余田路傍 道標 「右法花山　左北条」 ・小倉路傍 道標 「右ほつけ　左北条」　など	・新町路傍 道標（天明 5 年造立） 「右たしま　左なくさ　道」 ・田口路傍 道標 「右丹後成相山　左前之庄宍粟」 ・板坂路傍道標 「ひだりじゆんれいミち」　など
舟運と渡し	・市川 ・駒ヶ岩（湛保） ・歴史民俗資料館所蔵の古文書類（市川実測図、三木家文書など）	—	—
街道集落の町並み	・辻川の町並み	—	—